

CT Axial 画像から導く最適カテーテルサイズ予測因子の検討

¹国保松戸市立病院千葉 健¹

【目的】胸部領域における CT Axial 画像データより、冠動脈カテーテル検査(以下 CAG)で使用される最適カテーテルサイズ(Judkins Left: JL)の予測因子を検討する。【方法】CAG と胸部領域の CT 検査(冠動脈 CT、単純、造影を含む)が行われた 701 例において、Axial 画像データより電子カルテ上の計測ソフトを使用し、ある仮説をもとに上行大動脈径の計測を行う。又、上記計測値と造影が可能であったカテーテルサイズ(JL)との関係及び、造影不可のためカテーテルサイズを変更した症例において分析を行う。【結果】胸部領域の CT Axial 画像データにおける上行大動脈径の計測値と、CAG で造影が可能であったカテーテルサイズ(JL)との関係には相関があり、上行大動脈径計測値+7.88mm であった。又、穿刺部位別のカテーテルサイズ(JL)は、TFA・R-TRA 群と L-TRA 群において有意差 ($P < 0.01$) を認めた。よって L-TRA より検査を行う場合、カテーテルサイズ(JL)は変更しなければならないことが示唆された。【結論】CAG 前において行われる胸部領域の CT Axial 画像データから、使用されるカテーテルサイズを予測することが出来れば、カテーテルの挿入回数及び無理なカテーテル操作を減らし、合併症等のリスクが低減されることが考えられる。又、他の診療科で実施された胸部領域の CT 画像データを有効活用することが可能となり、カテーテル操作に伴うリスク低減と共に検査・治療時間の短縮及びコスト低減につながることを考える。今後、信頼性の高いデータとして確立するために、より詳細な分析を行う必要があると考える。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号 演題番号